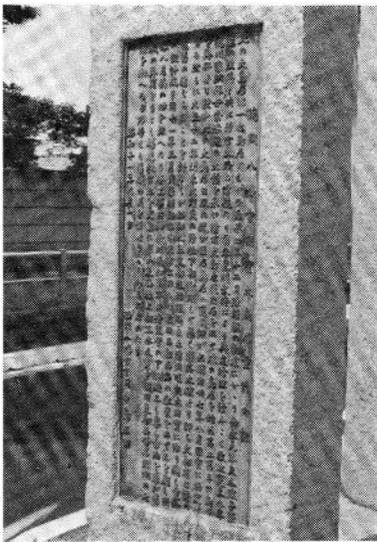




⑫

鎌倉八幡宮 の大鳥居

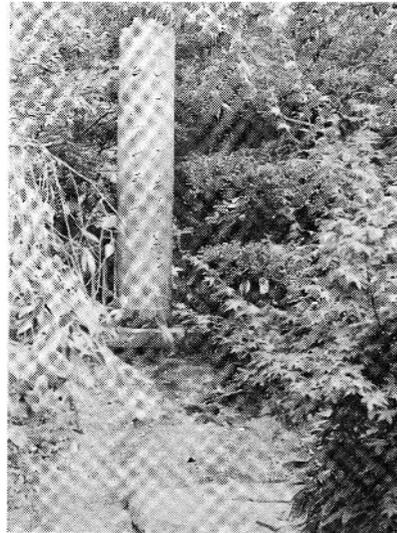
関東大地震のなごりを求めて、NHKの大河ドラマ「草燃ゆる」の舞台となった鎌倉を訪れてみました。横須賀線を鎌倉駅で降り、駅前広場から若宮大路に出て、左を見ると目の前に朱にぬられた八幡宮の二之鳥居が目に入る。関東大地震で、徳川四代将軍家綱が寛文8年（1668）に寄進した石の鳥居が倒壊したため、そのあとに再建されたものである。この鳥居とは反対に右へ曲り、しばらく由比ヶ浜の方向に歩くと一之鳥居がある。この鳥居の再建を記した碑文を読んでみよう。



一之鳥居前
にたてられた
「鶴岡八幡宮
国宝大鳥居重
修の記」碑。

鶴岡八幡宮国宝大鳥居重修の記

此の大鳥居は一之鳥居ともいひ治承四年十二月源頼朝の創建にかかり寿永元年夫人政子築造の段葛と共に若宮大路の偉観たり、爾来武門武将により再建修理を行ふこと数次寛文八年徳川家綱祖母崇源院の大願を承け備前犬島産花崗岩を以て此の鳥居を始め第二、第三の鳥居を再興せり、就中此の大鳥居は夙に我が国石鳥居の範と仰がれ明治三十七年八月国宝に指定せらる。然るに大正十二年関東大震災の際柱下部を残して悉く顛落大破せり、即ち文部省に請ひ復旧の速ならむことを計りしが昭和九年文部技師阪谷良之進、同囑託大岡實に依り稍く重修の設計成り同十一年三月国庫補助並



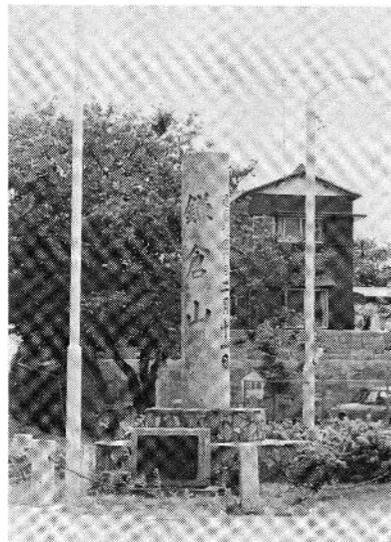
二之鳥居の
旧石材を用い
て建てられた
実朝の歌碑
（鎌倉国宝館
南隅）

に東京上田ちた、近田三郎両名の献資を以て工を起し同年八月其の功を竣へたり、本工事は神奈川県知事半井清監督の下に施工し専ら古法を尊び旧材の再用を旨とし、補足材は之を犬島に求め東西柱上部笠木及貫中部同東部西沓石北側の七個を加へたる外苟くも旧観の美を損せさらしむるに力めたり。

昭和十一年九月一日

鶴岡八幡宮宮司 中島正国

倒壊した二之鳥居、三之鳥居の再建は旧石材を用いずにおこなわれました。八幡宮の片すみには今でも折れた石の笠木などが放置されています。また一部の石材は実朝の歌碑や鎌倉山の記念碑としてよみがえっています。（平野富雄）



鎌倉山の記
念碑も鳥居の
旧石材を用い
て建てられ
た。